

さて、第一段落ではICTの利用者として、第二段落ではICTの学習者としての視点から皆さんの現状を書きましたが、日本は他国に比べてICTを学習外目的で長時間利用しているものの、学習目的の利用時間はOECD諸国の平均以下というデータがあります。詳しくは、OECD生徒の学習到達度調査の学習到達度調査（PISA2018）をご覧ください。ポイントと結果がhttps://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdfにまとめられていますが、日本のデジタル機器の利用時間は「ネット上でチャットをする」、「1人用ゲームで遊ぶ」割合が他国より高く、宿題に

利用する割合が最下位という、少し悲しい結果になっています。つまり、Society5.0（超スマート社会）が到来すると言われているものの、ICTの消費者という現状に留まっており、創造的に活用することが出来ていません。GIGAスクール構想は、いわば皆さんの消費者から創造者への転換を図っていると言えるでしょう。

このコラムでは、教科学習に留まらず、プログラミングや統計処理を実際の社会問題に適用することをお勧めしたいと思います。平成28年に制定された官民データ活用推進基本法により、国及び地方公共団体はオープンデータに取り組むことが義務付けられました。私も久留米市のオープンデータ活用推進研究会の一員として様々な活動に携わり、地域の社会問題を解決するアイデアソンや世界中で同じ日にオープンデータをお祝いするオープンデータ・デイの企画などに参加してきました。行政に頼らず、市民自らがテクノロジーを用いて地域の課題解決を行うシビック・テックに関与するため、Code for KURUMEにも参加しています。Code for（地域名）は多数ありますので、Code for Japan (<https://www.code4japan.org/>) を見てください。皆さんの近くにもきっとあるはずです。新型コロナウイルス対策ダッシュボード (<https://www.stopcovid19.jp/>) もオープンデータを使っています。アプリ開発などの技術力を付けたければ、勉強会のプラットフォームconnpass (<https://connpass.com/>) を覗いてみてはいかがでしょうか。遠隔および対面の勉強会が多数用意されています。私も学生と一緒にメンターとしてCoderDojo久留米に時々お邪魔しています。技術力を磨いてコンテストに参加することもできます。

新型コロナウイルスで前倒しになったGIGAスクール構想や遠隔授業・ウェビナーの普及、シビック・テックやコンテストなど様々な活動がZ世代の皆さんをICT消費者から創造者に転換できれば、今までと違った結果がPISA2022で見られるかな、と楽しみにしています。

（久留米工業高等専門学校 黒木祥光）

